

21世紀へ伝えるべきこと

山手中 二年 山中歩美

「21世紀へ伝えるべきこと」、それはやはり戦争だろう。あの過ちは二度とおこしてはならない。かといって、私は戦争の何が分かっているというのだろうか。実際に体験しないと絶対に分からない恐怖なのだろう。だからこそ、実際に「戦争」というものを体験したお年寄りの方々から子供の私達に伝えてほしい。「戦争は人間の手で人間をくるめている、恥じるべき行いだ」ということを。

これから時がたつにつれて、戦争を体験した方々はどんどん亡くなっていて、いつかは、生きているすべての人が戦争を知らぬ世界になってしまう。そんな時にまたあの悲劇が起こらないように、「今」、私達に伝えてほしい。私達はそれを後の21世紀、22世紀を生きる子供達に伝えるのが役目だと思う。

起こってからではおそいから。



家族の再構築

① 青少年問題 ② 老人問題 ③ 環境問題

大きな夢・希望・願いは歴史に名を残したり、社会を飛躍的に高めるためには大切です。しかし、現在の社会状況を観ると深刻な問題に直面しています。それは、

① 青少年問題 ② 老人問題 ③ 環境問題

環境問題を除けば青少年・老人問題も核家族化に伴う家庭崩壊が大きな要因です。単身赴任、過労死、少子化、カギっ子、介護放棄、施設入所などにみられます。

家族揃ってのどんらんの食事などコミュニケーションは少なく、一般的に親子関係も希薄となり、本来、親の責任である子供に対する善悪のけじめ・躾も不十分となつていきます。

結果的に弱い立場の子供や老人にツケがまわり、被害者にもなり加害者にもなつて様々な問題を引き起こしたと思います。

これらは、より物質的に豊かで便利な社会をめざした、高度経済

成長の流れの中で起きた必然的な現象で精神的にはマイナス・退化した現象であると思います。

私たちは歴史から学ぶことが沢山あります。温故知新の言葉とおり、昔の家族制度のよさを見直し、21世紀には人間社会の基礎となる「家族の再構築」を。

— 匿名 —



わたしたちが21世紀へ残したいこと、伝えたいこと
萬古焼の先達たちが遺したもの

東阿倉川 松本賢一

萬古焼は全国で五本の指に数えられる産地として、地域の経済に貢献し、総生産に占める輸出の割合は首位の座を保ち外貨の獲得にも大きく寄与してきました。それだけに先達たちが遺したのも大きく、その技術や技法は勿論のこと、その心根は未だに脈々と息づいているものがあります。

その人々に共通して言えることは私利を願わず、富国の心を養ったことでもあります。

未来永劫に続くであろうことを願って沼波弄山が「萬古不易」又は「萬古」の印を作品に押し出したことに始まった萬古焼二六〇年の来し方には、その節目節目に黄金の釘を打ち込んでくれた数多くの忘れ得ぬ先達たちがあります。即ち木型成型や粉彩盛り絵をはじめ多くの新しい技術技法を編み出した森 有節、「海蔵庵」と称する工房を設けて四日市萬古焼の先駆けとして地域社会に貢献した田端教正、そ

して農民の貧困を救済せんがため幾多の苦勞を重ねて産地化への基礎づくりをした山中忠左衛門、また多くの後継者を育成した堀 友直、更には輸出の足がかりをつくつた川村又助や「大正焼」を誕生させることにより産業革命を起こした水谷寅次郎を忘れることは出来ない。寅次郎が筆舌に尽くしがたい苦難の末「大正焼」が生まれ出たとき、「独占事業として会社組織にする企画」の話があつた寅次郎は「私は萬古焼の将来を深く考慮して身分不相応な夢を追つたのであつて、私欲から出発したものではありませんから」と、この厚意的な申し出を即座に断つたものであります。

最後に感恩、報恩の心をもって、来るべき21世紀を担つて立つ人々の無限の向上を祈りたい。

「劫初より、つくりいとむ殿堂にわれも黄金の釘一つ打つ」

与謝野晶子